

報告

里親制度啓発ポスターの制作

Creation of posters to raise awareness of the foster care system

小橋 圭介

KOHASHI Keisuke

Yamaguchi Prefectural University offers a "CG Training" course to help students acquire the knowledge and skills to use CG software. In addition, this university is involved in various initiatives with external organizations as part of a regional cooperation, and the "foster parent system" discussed in this report is one such initiative. This paper reports on the process of the "Foster Care System Awareness Poster" project.

1. 背景

山口県立大学国際文化学部文化創造学科では、実習科目のひとつに「CG実習」を開講している。Adobe IllustratorやPhotoshopなどCGソフトウェアの基本的な知識を理解し、アイデアを視覚化するための実習を通して、みずからの着想を発信するための基礎的な知識と技術を身につけさせることを目指している。また、本学では地域連携の一貫で外部組織と様々な取組を行っており、本稿で扱う「里親制度啓発ポスター」についても受託研究として筆者に依頼がきたものである。学生によるポスター制作が依頼者の希望であったためゼミ生や有志を募るか思案した結果、上記科目の授業課題として取り入れることにした。「文字」や「画像」など様々な要素を構成して制作する「ポスター」は、本科目の授業内容や到達目標と合致し課題として適切と判断したためである。本稿では、受託研究として依頼があった「里親制度啓発ポスター」の取組について報告する。

2. 里親制度とは

まず、ポスターのテーマとなる「里親制度」について触れる。本制度は、本来の家庭で生活することのできない子どもを、一定期間、自らの家庭へ迎え入れ、豊かな愛情と理解をもって育てる「社会的養護」の枠組みの中のひとつである。社会的養護とは、保護者のない子どもや、保護者に監護させることが適当でない子どもを、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護下の子どもた

ちは、山口県では約500人、全国では約45,000人いると言われている。養護問題の発生理由は、戦後は「戦災孤児や疾病」が主なものであったが、近年は「虐待」が主な理由となっている¹⁾。また、諸外国と比較しても日本の里親委託率が充分とは決して言えない²⁾。この現状だけとって、制度の認知度・普及度の向上が望まれることが分かる。

依頼主は「里親養育サポートセンター れりーふ（以下、れりーふ）」であり、山口県における「フォスタリング機関」である。この機関は一連の「フォスタリング業務」を包括的に実施する機関であり、その業務は以下の通りである。

フォスタリング業務(定義):

- ・里親のリクルートおよびアセスメント
- ・里親登録前後及び委託後における里親に対する研修
- ・子どもと里親家庭のマッチング
- ・子どもの里親委託中における里親養育への支援
- ・里親委託措置解除後における支援

フォスタリング業務(目的):

- ・より多くの里親を開拓し、里親との確かな信頼関係を基盤に、里親の持つ養育能力を十分に引き出し、伸ばすことで、質の高い里親養育を実現し、維持する。
- ・里親と子どもが、地域社会の偏見や理解不足のために孤立することのないよう、関係機関による支援のネットワークを形成し、地域社会の理解を促進する。

3. 目的

「れりーふ」から、学生たちへの要望は以下の通りである。

- ・「文字」「説明」による周知は回りくどく、堅苦しくなるので極力控えてほしい。
- ・デザインを切り口とすることで、関心を持ってもらう敷居を下げしてほしい。
- ・大学生が関わることで、里親制度がより身近で、全世代的なものであることを訴求してほしい。

毎年、行政が啓発ポスターを制作しているが、デリケートな制度のためか当たり障りのない表現に落ち着くことが多い。SNSなどの普及により過敏になって表現が萎縮してしまうのも頷けるが、重要なメッセージが伝わらないのでは意味がない。実際、「れりーふ」の方たちは現状のポスターに満足していない。これからを担う学生たちが「里親制度」に真摯に向き合うことで生まれる「表現」は、若者たちの率直な意見を投影するものであり非常に意義深いものになると考える。

これらの要望を汲み取り、且つメッセージを伝える媒体として機能する「ポスター」の制作が目的である。同時に、コンピュータの操作技術や知識の理解度・習熟度の確認も図っていった。

4. 実施スケジュール

- 2021年11月30日 「れりーふ」による説明
- 2021年11月31日～12月20日 制作期間
- 2021年12月21日 発表会
- 2022年1月18日、25日 個別講評会
- 2022年4月11日～5月31日 修正期間
- 2022年9月12～10月21日 ポスター展

5. 実施概要

CG実習にて「れりーふ」センター長である小林有氏に来学いただき、先述した里親制度について説明をしていただいた(写真1)。学生たちは制度の名前は耳にしたことがあっても、実際のところを知るまでに至ることは殆どない。特に20歳前後の学生たちにとっては尚更である。

制度の実情や課題、体験談などを理解しながら各自がアイデア出しをしていった。この授業はIllustratorなどCGソフトウェアを用いて制作をする実習ではあるが、手描きによるラフスケッチを課している。受講生の大半はこの授業で初めて



写真1 センター長・小林有氏による説明

Illustratorなどに触れる。知識・技術が不十分な場合、どうしても自分のできる範囲で制作を進めてしまう。それでは、表現力や発想力が埋没してしまうため、まずは手描きでアイデアをだしてもらう。手描きであれば、紙とペンがあれば思考を定着させられるため、不慣れなコンピュータよりもアイデアを定着させやすい。「コンピュータで出来ることをするのではなく、コンピュータでやりたいことをする」を念頭に制作に取り組んでもらっている。授業担当者である筆者は、教室内を巡回しながら適宜指導をしていく。基本的には学生たちのアイデアを肯定的に捉え、「なぜ？」と問いかけながら各自のアイデアを掘り下げていった。

「プレゼンテーション(発表会)」は、当初「A2ポスター(原寸)」を掲示して発表する計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から急遽、遠隔に変更することになった(図1)。

オンライン上で実施したプレゼンテーションは学生同士の制作意図などの説明を中心に進行し、教員のコメントは全体に関わるものに留める。遠隔による全体発表の場で細かい指摘をしても、理解を促す

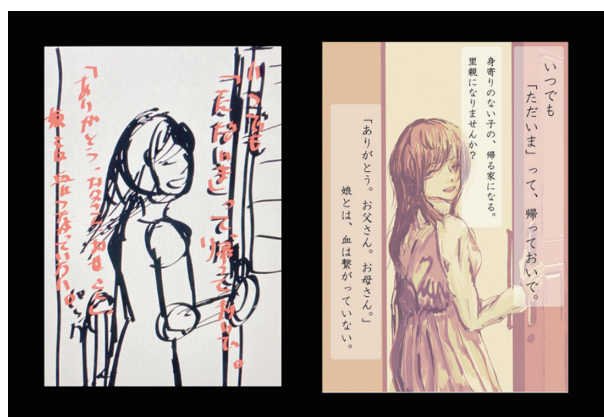


図1 発表スライド(左:ラフ、右:完成品)

ことが困難なためである。翌週から実施する個別指導も遠隔ではあるが、一人一人個別に対応することで細やかな指導を実施している。

6. 操作技術や知識の理解度・習熟度について

コロナ禍による遠隔対応のため対面授業が減った弊害として、技術や知識の理解度・習熟度の確認が困難になった点が挙げられる。対面であればその場で確認できたことも、遠隔では画面上のデータで観ることしかできないため、学生がどこで躓いているのか察するのは難しい。もちろん、学生自身が疑問を投げかけてくれば対応も可能だが、学生自身そもそも何が分からないのか分からないという状況も珍しくない。対策として、本課題の提出データに以下の条件を課して理解度・習熟度を図ることにした。

- ① 作品サイズはあっていますか
- ② 文字はアウトライン化していますか
- ③ リンク外れは大丈夫ですか
- ④ トンボはきちんとついていますか
- ⑤ 塗り足しはありますか

基本的な項目から、知識・技術がないと対応できない項目まで幅広く網羅した。以下に各項目の質問意図を整理する。

① は作品制作における大前提である。ここが違うと、他の点がどれだけ正確であっても意味がないため、基本中の基本と言える。

② は制作したデータの文字が、自分の作業PC以外でも問題なく表示できるかを意識できているか確認する項目である。Illustratorに限らず、PC上の文字の造形はプログラムによって表示している。そのため、表示するPCに該当の文字のプログラムがなければ「文字化け」という状態になり、きちんと表示されない。

③ はIllustrator上に画像を配置した際に起こる状態について確認している。Illustratorデータで画像を表示する場合、その画像は外部リンクによって呼び出して表示をしている。そのため、何らかの原因でリンクが切れた場合、画像が表示できなくなる。基本的にはIllustratorデータと使用した画像は同一階層上にある必要があり、大抵はフォルダなどに入れて一緒に管理・移動することでトラブル対策をする(図2)。

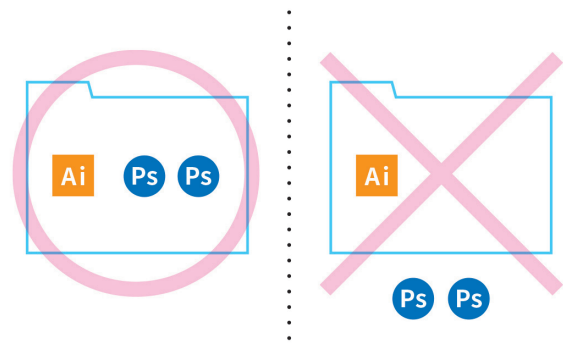


図2 リンク外れ

④ は印刷用データの知識について確認している。トンボとは、印刷物を裁断する際に使用する目印である(図3)。

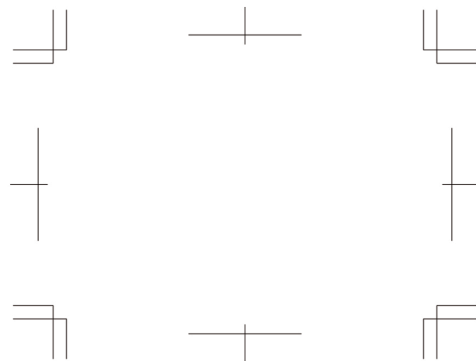


図3 トンボ

⑤ は④の応用編として位置づけている。塗り足しとは、仕上がりの印刷サイズより外側に色や写真がはみ出ている箇所のことをいう。印刷物は何百枚もの紙を重ねて裁断するため、その際に多少のズレが生じる。ズレってしまった場合、塗り足しの処理がきちんとされていないと、紙の端に印刷されていない白い箇所が出てしまう(図4)。

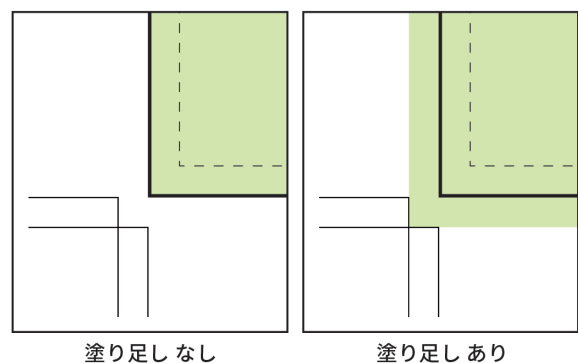


図4 塗り足し

結果は以下の通りである(表1)。

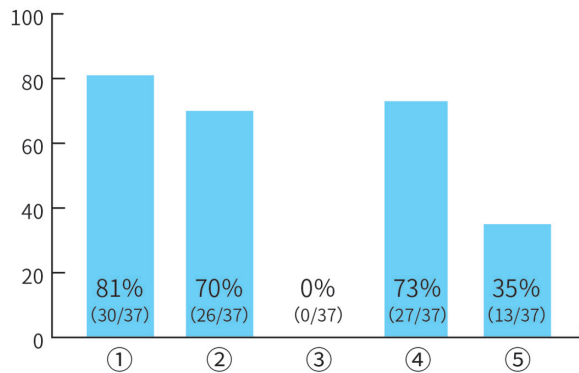


表1 理解度・習熟度の結果

表1の状況を受講者全員に説明するとともに、不足している点について再度説明を行っていった。特に顕著だったのは③である。これは、受講生の理解度以前に、そもそも説明が足りていないと判断した。今回の課題を事例として示しながら、繰り返し説明を行った。次に④と⑤である。予想通り、「塗り足し」の理解度は低かった。④で触れるトンボを知識として認識していても、その役割まで理解しきれていないために「塗り足し」が作れない。次の授業課題においても、同様の条件を課した。同じ条件で異なる課題に取り組むことで、慣れではなく理解度・習熟度が測れると推測した。

結果は以下の通りである（表2）。

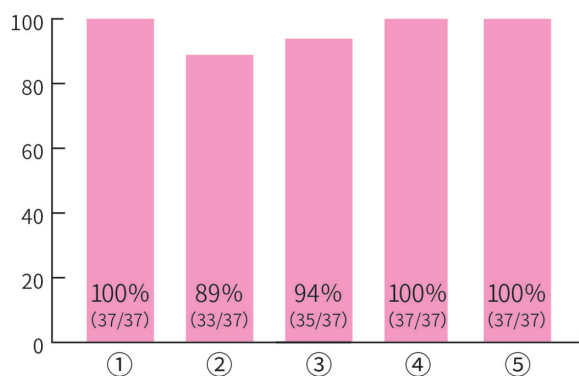


表2 理解度・習熟度の結果(再)

理解度・習熟度の向上は明らかであり、いかに「反復」が重要であるかを実感した。毎年受講生が変わるため定量的に分析することは難しいが、この方法を継続し効率的な授業運営を検討していく。

7. 考察

学生たちの制作意図を、ユーザーローカル³⁾のテキストマイニングツールで抽出した(図5)。同時

にポスターの構成要素を、色彩・表現・視点で分析した(図6)。制作意図のキーワードは「あたたかい」や「やわらかい」といった形容詞のスコアが高く、暖色系の作品が65%と半数を超えている点とも合致する。

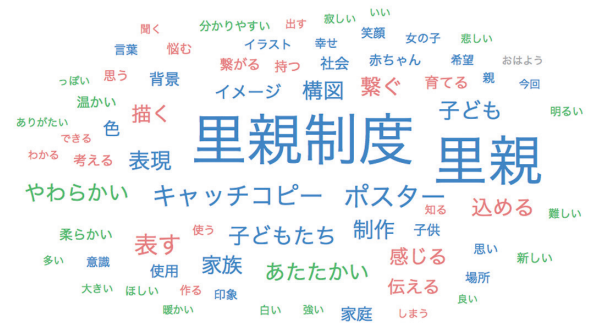


図5 制作意図のキーワード

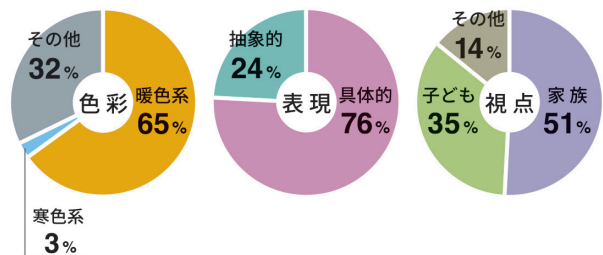


図6 ポスターの構成要素

制度を伝える必要性から76%の作品はイラストレーションなど具体的な描写を用いているが、24%が抽象的な表現をしている点は興味深い。ピクトグラム、シルエット、比喩などの表現を用いて、性別や家族構成を曖昧にしている。これは「父親・母親・子ども」といった一般的な家族構成が「里親制度」への理解の妨げになる可能性があると考えているのが制作意図から読み取ることができ、固定観念に縛られない前向きな表現として捉えることができる。また、具体的な描写をしていても、中性的な描写をしたりトリミングをしたり、特定のイメージに偏らないような表現にしている作品も複数あった。里親を「新しい家族の形」と認識し、片親・ジェンダー・地域社会との接点など、学生たちの視点は多岐に渡り、全体的に明るく肯定的な表現が多いのが印象的だった(図7)。



図7 学生作品

次に制作したポスターを先方に提示して、意見や感想を集約していった。自分たちのポスターがどのように受け止められるのか、学生たちにとって重要な点である。結果、里親や子どもたちに接する関係者ならではの鋭い指摘を多くの作品にいただいた。良かれと思って表現したことが、思わぬ誤解を招くことはよくある。制作者である学生たちにそのつもりはなくても、関係者が感じたのであれば、それも一つの解釈と理解して受け止めるべきである。教員は技術的な面で指導をすることはできるが、表現の伝わり方や言葉の選び方は関係者に意見を仰ぐしかなく、外部案件を授業に取り入れる意義を改めて実感した。

一方、関係者たちも現場にいるからこそ見落としがちな盲点とも言える「気づき」を得ており、双方にとってポスター制作が「客観視の場」として機能しているのがうかがえる。

8. まとめ及び今後の検討課題

先に触れた通り、2022年1月からは計画を変更し遠隔授業により開講した。モニター越しでポスターデザインを共有したものの、A2サイズ(420

×594mm)の原寸サイズで確認できた訳ではない。デザインにおいて原寸確認は必須であるため、原寸確認及びデザイン修正期間を設けた(写真2)。あわせて、学生たちの制作意図などをまとめた冊子も制作した。これは紙媒体だけでなく、デジタルパンフレットも用意し、「れりーふ」のホームページから閲覧できるようにしている(図8)。



写真2 ポスター原寸の確認



図8 制作意図をまとめたデジタルパンフレット

毎年10月が「里親月間」のため、その時期に合わせて「里親制度啓発ポスター展」を以下6箇所の会場・日程で開催した(写真3)。

1. 岩国市役所 (2022.9.12(月)～9.16(金))
2. イオンタウン防府 (2022.9.17(土)～9.23(金))
3. フジグラン宇部 (2022.9.24(土)～9.30(金))
4. 周南市役所 (2022.10.4(火)～10.10(月))
5. シーモール下関 (2022.10.11(火)～10.16(日))
6. 長門市役所 (2022.10.17(月)～10.21(金))

多くの方たちに鑑賞してもらうことで、「里親制度」の認知度・理解度の更なる向上に繋がることを願っている。今後は、展覧会で実施したアンケート



<https://textmining.userlocal.jp> (最終閲覧日:
2023/01/05)



写真3 展示風景

結果の集計や来場者のコメントを整理することで、来場者の傾向やポスター作品に関する興味関心について調査をしていく。

謝辞

実習系の課題は基礎的な面もあってか個人的な成果物に留まる傾向がある。その中で、授業方針にご理解いただきコロナ禍において社会性を取り入れた課題を設定することができた。センター長の小林有氏をはじめ、里親養育サポートセンター れりーふの皆様にご心より御礼申し上げます。

注および参考文献

- 1) 厚生労働省:児童養護施設入所児童等調査の結果 (平成30年2月1日現在)

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09231.html
(最終閲覧日:2023/01/05)

- 2) 厚生労働省:社会的養育の推進に向けて(令和3年5月)

<https://www.mhlw.go.jp/content/000833294.pdf>
(最終閲覧日:2023/01/05)

- 3) 「User Local」テキストマイニングツール